

日本ケミファ株式会社

国立大学法人筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIS)

学校法人北里研究所北里大学

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

オピオイド δ (デルタ)受容体をターゲットとした 抗うつ・抗不安薬 NC-2800 の学会発表について

日本ケミファ(代表取締役社長:山口 一城)と筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIS / 教授:長瀬博)、北里大学(教授:藤井 秀明)、国立精神・神経医療研究センター(精神薬理研究室長:斎藤 顕宜)は、日本医療研究開発機構(AMED)による支援のもと、抗うつ・抗不安薬として選択的オピオイド δ 受容体*1 アゴニスト(NC-2800)の共同研究を進めております。

このたび、この共同研究の成果として、既存の抗うつ薬で治療効果を得るまでに長期の投与を必要とするうつ病モデル動物において、NC-2800 が投与早期から低用量で優れた抗うつ作用を示すことを見出しましたので、その結果を2016年11月12日~16日に米国サンディエゴ市にて開催される北米神経科学学会年会(Society for Neuroscience annual meeting 2016)*2 で発表いたします。

【演題名】 A novel δ opioid receptor agonist NC-2800 produces anxiolytic-like and antidepressant-like effects in animal models.

【発表者】 ○斎藤 顕宜¹、中田 恵理子²、後藤 玲央¹、廣瀬 雅朗²、酒井 潤一²、小松 隆男²、藤井 秀明³、山田 光彦¹、長瀬 博⁴、山川 富雄² ○は演者

1. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神薬理研究部
2. 日本ケミファ創薬研究所
3. 北里大学薬学部生命薬化学研究室
4. 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIS)

【ポスター番号】 71.09 / VV6

【発表日時】 2016年11月12日(土) 13:00~17:00 (現地時間)

不安と抑うつは様々な精神疾患に共通して出現する中核的な精神症状であり、患者さんの生活の質(QOL)と社会機能を大きく損なう原因となる症状です。現在広く用いられている抗うつ薬では、治療効果が現れるまでに長期にわたる投与が必要であることや、十分な治療効果の得られないケースがあるなど、未解決の問題が残されています。また、既存の抗不安薬も、鎮静や一過性の健忘、常用量依存などの問題があり、使用に制限があるのが現状です。そのため、これらの問題を克服した新たな治療薬の開発が強く求められています。

近年、オピオイド δ 受容体アゴニストが、モルヒネに代表されるオピオイド μ 受容体アゴニストで見られる便秘、呼

吸抑制、薬物依存といった副作用を示すことなく、優れた抗うつ・抗不安作用を示す可能性が明らかになってきており、新たな作用機序に基づく情動調節薬となることが期待されています。かかる状況下、上記4者は、オピオイドδ受容体をターゲットとした経口投与可能な抗うつ・抗不安薬の創製を目指して共同研究を進め、開発候補化合物 NC-2800 を見出しました。このたびの研究成果は、NC-2800 が既存の抗うつ・抗不安薬の抱える問題を克服した新たな治療薬となる可能性を示唆するものです。オピオイドδ受容体をターゲットとした医薬品はまだなく、NC-2800 は世界初の画期的な新薬となる可能性を秘めています。

なお、本共同研究は 2013 年に国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の「研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ハイリスク挑戦タイプ: 課題名『情動系を調節するオピオイドδ受容体作動薬の創製』(研究者: 長瀬博、藤井 秀明、斎藤 顕宜、企業: 日本ケミファ)」として採択され、さらに 2015 年からは国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の「産学連携医療イノベーション創出プログラム (ACT-M): 課題名『情動系を調節するオピオイドδ受容体作動薬の開発』(研究者: 長瀬 博、藤井 秀明、斎藤 顕宜、企業: 日本ケミファ)」に採択されました。現在、2018 年 3 月までの ACT-M プログラム期間中の非臨床試験終了を目指し、継続的な公的支援を受けながら開発を進めております。

(ご参考)

* 1 オピオイドδ受容体

オピオイド受容体には主に μ 、 δ 、 κ の 3 種が存在し、モルヒネなどの麻薬性鎮痛薬による強い鎮痛作用と薬物依存などの副作用は μ 受容体への作用に由来することが明らかとなっています。これに対して、オピオイドδ受容体の活性化は、うつや不安障害への改善効果などの薬理作用が知られ、便秘、呼吸抑制、薬物依存などの副作用への影響は少ないとされており、安全性と有効性のバランスに優れた医薬品のターゲットとして注目されています。

* 2 北米神経科学学会 (Society for Neuroscience / SfN)

例年、米国で開催され、毎回 3 万人以上の参加者が集まる神経科学分野で世界最大の学会。

URL: <https://www.sfn.org/annual-meeting/neuroscience-2016>

以上